

請願第3号

「平成30年10月5日に可決された『奈良県立高等学校設置条例の一部を改正する条例』における奈良市所在の県立高校7校に関して、県立高校進学希望者の要望に沿った募集定員、並びに普通科定員の確保を求める」請願

付託委員会	文教くらし委員会	紹介議員	山村 幸穂
<p>《要旨》</p> <p>『奈良県立高等学校設置条例の一部を改正する条例』（以降、本件条例という）により、奈良市における県立高校の定員枠が他地域に比べて大幅に少なくなり、県立高校進学への公平性が保たれなくなる。</p> <p>平成31年（令和元年）の奈良市内の県立高校の入学枠は、定員1930名であるのに対し、令和2年は416名減の1514名と奈良市だけが大幅に削減される予定であり、この状況は他地域に比べ、生徒数に対する募集人数が極端に少なくなる。</p> <p>また、奈良市所在の7校の県立高校の生徒のうち、奈良市在住者の比率が約半分を占めており、奈良市在住の県立高校進学希望者にとって影響は極めて大きい。</p> <p>また奈良市の県立高校普通科の定員は34%に激減する。しかし県教育委員会による「県内公立中学生の進路志望調査」では、71.9%の生徒が全日制普通科への進学を希望しており、奈良市の普通科定員はこれを大きく下回ることになる。</p> <p>募集定員については、住民参加の観点で、入学希望者や保護者、卒業生、県民の意見を広く聞き、併せて、進学実績や学校評価から、高校の持つ価値を客観的に評価し県民の広い合意形成が必要である。</p> <p>よって以下の2項目の請願を求める。</p> <p>請願項目1.</p> <p>本件条例により、奈良市所在の県立高校の定員枠が他地域に比べて大幅に少なくならないように、奈良市所在の県立高校の進学者数に適した募集定員を確保することを求める。</p> <p>請願項目2.</p> <p>本件条例により、奈良市所在の県立高校普通科の定員は34%に激減し、県教育委員会の要望調査により得られた71.9%を大きく下回る。そのため、奈良市内の県立高校7校について、特に、入学希望が多い普通科に関して、募集定員の修正を求める。</p> <p>現状の普通科定員が妥当であることについて</p> <p>奈良県教育委員会が知事報告のために平成29年度9月1日に作成した「県立高等学校の配置と規模の適正化について」の資料に記載の平成29年度公立中学生の進路希望の調査結果では、71.9%の中学生が普通科を希望している。現在、奈良市内の7つの県立高校の定員は1930名であり、そのうち1440名が普通科である。普通科の定員は全体の74.6%であり、進路志望の調査結果である71.9%と概ね一致しており、妥当な定員数である。</p> <p>民意とかけ離れた本件条例の普通科定員について</p> <p>各市の人口数を無視した「1つの市に1つの普通科」という方針が定められた本件条例が執行される来年には、普通科である平城高校（定員360名）、登美ヶ丘高校（定員240名）が廃校となるため、奈良市の県立高校普通科の定員は840名の51.8%（奈良市の県立高校の定員1514名）に減少する。さらに再来年には、西の京高校（定員320名）が廃校されるため、普通科の定員は520名の34%にまで減少する。今後、奈良市の普通科は奈良高校のみとなる。これにより、奈良市内の普通科定員は普通科入学希望者数の半分以下となる。</p> <p>これは民意の要望を正しく反映されていないだけでなく、人口の多い奈良市においては、公平に普通科進学への機会が与えられない状況に陥る。租税公平にも反する。</p> <p>県教育委員会の普通科再編に関する分析結果と実行計画との齟齬について</p> <p>特に調査報告書には「生徒のニーズは、公立普通科が高い。ただし、普通科全体の定員が充足していないことから、普通科への希望というよりも、特定の学校に入学したいニーズであると思われる。⇒希望の学校に入学できない生徒の一部は県外の私立高校に流出しているが、今後、各校の特色化・魅力化の推進により、県内高校への進学率を高めることにつなげたい」とある。</p> <p>本報告書の括りとして、入学希望のある特定の学校は問題ではなく、「定員が充足しない普通科が問題であり、定員が充足しない普通科高校に対して特色化・魅力化の推進をする」と記載されている。</p> <p>定員割れを起こしている県立高校は8校あるが、その中に奈良市所在の平城、登美ヶ丘、西の京の各校は、定員割れのない人気校であり、報告書の観点からも再編される必要はない。</p> <p>最後に、なぜ、人気校である奈良市の県立高校3校を廃校にして新たな高校を設置することにしたのか、奈良県教育委員会のホームページにはその理由を「生徒急増期に設立された高校」という説明がされているが、奈良県教育委員会の議事録には一切、議論し決した記録はない。唯一、奈良高校の耐震対策のために平城高校を廃校にしたとされる新聞記事が残されている</p> <p>耐震対策のために拙速に進められたのが本件条例であり、多くの県民、特に奈良市民が不利益を被る本件条例について、民意を入れ時間をかけて本質的な検討および見直しを求める。</p>			
<p>審査結果</p>			
<p>継続審査</p>	<p>採択</p>	<p>不採択</p>	<p>一部採択 趣旨採択</p>
<p>令和元年10月7日</p>			